



住宅を選ぶときの注意点



住宅を探すとき、皆さんはどのような基準で選んでいますか？ 部屋の広さや値段だけで決めてしまい、いざ生活を始めてみると大失敗！ ということでは困ります。購入にしろ賃貸にしろ住宅選びには失敗したくないものです。ですから内見は大切なポイントになります。平成15年には国土交通省住宅局が住宅需要実態調査の結果を発表しています。この中で住宅に対する意識調査で42.4%の方が現在の住まいになんらかの不满を持っていると答えています。とくに騒音や防犯に対する安全性などは実際に生活を始めてみないとわからないこともあります。部屋を決める前に不動産業者、大家さんに相談して気になる点をクリアにすることが大切です。

内見時に確認しておきたいポイント！

■ エントランスのチェック

集合ポストからチラシが溢れていたりはしませんか？ エントランスがきれいに保たれている物件は大事にされている証拠です。

■ 換気性

部屋に入ったときにこもった臭いはしませんでしたか？ 換気が行き届いている部屋は物件管理がしっかりしています。

■ 清掃済みの標示

トイレや玄関にハウスクリーニング済みの標示があるか確認してください。

■ 通信機器の確認

インターネットなどの接続環境を確認しましょう。携帯電話の受信エリアに入っているかもチェックしましょう。

契約前に確認しておきたいポイント！

■ まわりの治安を含めた防犯性

近くの道路の街灯が少なく暗くなっていませんか？ また家までの帰り道に人通りの少ない道はありませんか？

■ 耐震性

現在の耐震基準は、昭和56年6月に改正された建築基準法により定められています。それ以前に建てられた物件に入居する場合、耐震性について契約前に不動産業者、大家さんに確認しましょう。

■ 騒音や大気汚染などの環境

昼間は静かでも夜になると…？ 昼間だけでなく夜間の状況も事前に確認しておくといよいでしょう。

■ 生活をする上での利便性

通勤、通学に便利というだけでなく、スーパー、コンビニ、病院、公共施設などが家の近くにあることも重要です。

参考：国土交通省 住宅需要実態調査結果

環境省が取り組むエコハウス事業とは？

エコハウスとは地球温暖化防止等の地球環境を考え、環境に負担をかけず建てられる家のことです。環境省が取り組むエコハウスモデル事業では、以下の3つを基本的なテーマとしています。

1. 環境基本性能の確保

断熱性、気密性、日射遮蔽などに工夫を凝らし、石油などの化石エネルギーの消費をできるだけ抑える。

2. 自然・再生可能エネルギー活用

家庭で使う必要なエネルギーを太陽、風、地熱、水、植物などの自然エネルギーを最大限利用する。

3. エコライフスタイルと住まい方

家庭からのエネルギー消費量の増加を抑え、地域や時代に合った新しいライフスタイルを提案。



参考：環境省 21世紀環境共生型住宅のモデル整備による建設促進事業



リフォームの基礎知識



リフォームの大きなメリットは、一般的に新築に比べて少ない予算でできるところ。

リフォームを考えるときには、まずは家族で住まいの改善したい点や不便な点をとりとまとめ、リストアップしましょう。

その上で、希望するリフォームの場所や時期、予算等を決定し、業者を選び、実際の工事を行います。

ここでは、目的や理想にあったリフォームを行うために、気をつけたいポイントをいくつかご紹介します。

●ここが大切！ リフォーム 3つのポイント

point

1

依頼する会社は評判＋自分の目で選ぶ

当然のことですが、リフォーム会社を選ぶ際にはその会社が信頼できる会社かどうか、しっかりと見極めることが大切です。近所で実績があり評判のよい会社を選ぶときには、仕上がりが自分の望んでいるリフォームにあっているかどうかなども確認し、総合的に判断しましょう。

point

2

見積もりの依頼は数社に依頼＝相見積もりを

信頼できる会社を何社か選んだら、各社に同じ内容で見積もりをお願いし、比較検討してみましょう。金額の大小だけでなく、対応のすばやさや的確さ、アイデアの豊富さなども判断材料のひとつとなります。保証や安全性の担保等、目に見えない部分も確認しましょう。

point

3

契約書類は隅々まできっちり確認を

契約書と最終見積もりと照らし合わせ、実施するプランどおりか内容をすべてチェックし、約款についても十分理解した上で正式な契約手続きを行いましょう。追加や変更工事時の対応、アフターサービスの有無なども確認します。納得できるまで説明を受けましょう。





住まい・土地選びのポイント

これから長く住むことになる、住まいや土地。慎重な確認の上で、納得の購入を。

●住まいに対する条件・希望を考えましょう。

まずは、どんな暮らしをしたいか、希望条件を家族で話し合うことが大切です。ペットを飼いたい場合は一戸建て、庭や外回りのメンテナンスが面倒であればマンションなど、具体的に考えると、理想のマイホームが見えてきます。一戸建てかマンションか、新築か中古かで、内容が変わります。それによって資金計画や不動産、建設会社との相談内容も変わってきますので、希望条件をよく検討しましょう。

●現地に足を運び、自分の目で確認しましょう。

①まわりの治安を含めた防犯性

近くの道路の街灯が少なく暗くなっていませんか？

また家までの帰り道に人通りの少ない道はありませんか？

②生活をする上での利便性

通勤、通学に便利というだけでなく、スーパー、コンビニ、病院、公共施設などが家の近くにあることも重要です。

③騒音や大気汚染などの環境

昼間は静かでも夜になると…？
昼間だけではなく夜間の状況も事前に確認しておくとういでしょう。



●いろいろな視点で見ることも重要です。

地震被害や水害、地盤の液状化など災害に対する確認。雨水が流れ込む場所や水はけの悪い場所ではないか確認しましょう。周辺の地盤が軟弱でライフラインが使えないということもあります。地震による建物倒壊や液状化、火災などの被害を予測した防災マップ、洪水ハザードマップを確認しましょう。また、候補地区の近くに大きな空き地があれば、大規模な建物が建てられる可能性もあります。環境が一変する可能性もあるので注意しましょう。

●インターネットで確認しましょう。

行政サービスも気になるところ。住宅関連補助や子育て支援、その他サービスなどを確認しておくこともおすすめです。また、災害時の避難場所のチェックや危険な場所の確認、犯罪の発生状況など、安全に暮らせるための情報をインターネットでチェックしておくのもよいでしょう。

目次

松本市を知ろう

相談窓口

届出・証明・年金

くらしと生活

くらしと住まい

くらしと仕事

くらしと税

出産・子育て

健康と福祉

その他

防災・避難所

施設一覧

お役立ちガイド

地図

医療ガイド



葬儀のしきたりや作法について



●「隣組」が葬式を取り仕切る

長野県では「隣組」という近隣組織が通夜や葬儀を取り仕切ります。お葬式の手伝いは、地域の大切な仕事として会社を休んで出席するものという認識があり、そうしたしきたりに慣れていない都市部から移住した人は戸惑うこともあります。

●通夜るとき、紅白の水引をつけた「お見舞い」を出す

通夜の際、故人に親しい参列者が紅白の水引をつけた「お見舞い」を出すことがあります。これには、入院中お見舞いに行けなかったことを詫言の気持ちが込められており、通夜の席で遅れてしまった見舞金を渡すという意味です。昔は、香典を用意せず「お見舞い」だけを出す人もいましたが、現在では親しい間柄の場合にだけ香典に添えられ、一般的には香典のみを出すようです。

●通夜への弔問は必ず行く？

中信地区では、通夜は近親者のみで営まれることが多く、関東地方のように大勢の弔問客が訪れることは少ないようです。これは、通夜の位置づけが「近親者だけによる故人との親密な時間」と考えられているからです。このため、香典も通夜の折に持参するのではなく、葬儀告別式の会場で渡すという形式が一般的です。

●お骨葬について

葬儀・告別式を済ませてから出棺、火葬を行う形式が広く知られていますが、中信地区においては「お骨葬」と呼ばれ、お通夜の翌日、火葬を済ませてから葬儀・告別式が営まれることが多いようです。

●花輪について

造花や生花を環状に飾った花輪を贈って弔意を表すしきたりは全国で見られますが、当地区では近年、花輪を用いることは少ないようです。故人に花を贈りたい、という場合には、葬儀会場内に生花を「盛り花」として供える形式が一般的となっています。

●葬儀式場でのご会食について

葬儀式場に於いて、会葬者のために斎（とき）を振る舞うしきたりが広く見られます。当地区でも、都合が許す限り会葬者のほとんどが会食に参加するという形式が一般的です。葬儀・告別式の後に、ゆっくりと故人を偲ぶという意味合いが込められています。

お香典の表書き

お香典は、お通夜か告別式のいずれかに線香や花の代わりに霊前に供えるものです。不祝儀袋の表に「御霊前」と書きますが、仏式では通常四十九日までは「御霊前」でそれを過ぎたらもう仏様になったとして「御仏前」と書きます。宗教によってこの書き方はいろいろで、神式やキリスト教ではもちろん「御仏前」とは書かず、神式が「御玉串料」「御神料」、キリスト教は「御花料」。しかしどの宗派でも「御霊前」は使えます。



遺族への心配りを忘れずに…

お通夜、葬儀の参列マナー



お通夜やお葬式の参列マナーについてどのくらいご存知でしょうか？ここでは、突然の訃報でも慌てないように、基本的な参列マナーについて紹介します。

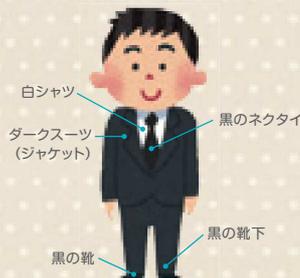
●**香典を用意する** 香典の表書きは宗派によって決まっていますが、「御霊前」はどの宗派でも使えます。香典は不祝儀袋に入れ、ふくさに包んで持参します。お札は新札を避け、新札しかない場合は折り目をつけて袋に入れます。

●**お悔やみの言葉の例** 「この度はまことにご愁傷様でした。謹んでお悔やみ申し上げます」とシンプルで差し障りのないものを手短かに述べるのがよいでしょう。「たびたび」「またまた」「続く」など不幸が続くことを連想させる忌み言葉は使わないようにしましょう。

●**受付での香典の供え方** お悔やみの言葉を述べ、持参した香典を渡します。表書きが相手に読める向きで渡し、芳名帳に住所と氏名を記入します。お通夜と葬儀に参列する際は、お通夜のときに香典を渡すのが一般的です。

お通夜・葬式での失礼にならない服装

男性の場合



注意

- ネクタイや靴下は黒無地で、柄物は避ける。
- 結婚指輪(婚約指輪)・腕時計(派手でない物)以外のアクセサリーは基本的に避ける。

女性の場合



注意

- メイクは派手にせず自然な感じで、マニキュアも目立たない程度なら可。
- バック・小物類は最低限の小さく地味な物が基本。
- 肌を露出させる服装は避ける。